

金堂

金堂は下醍醐の中心的なお堂です。もともと 926 年に建てられましたが、それ以来 2 回焼失しています。現在のお堂は、1600 年頃に豊臣秀吉（1537-1598）の命令により移転されました。

金堂は医薬と癒しの仏である薬師如来の坐像を安置しています。兄弟でそれぞれ日の光と月の光の菩薩である日光菩薩と月光菩薩が、薬師如来の両脇に立っています。3 つの彫像は、鎌倉時代（1185-1333）初期のもので、これらは、密教が日本に導入された直後の時代である平安時代初期（794-1185）の様式を模倣しています。平安時代には、素材として青銅の代わりに木材が使われるようになりました。

さらに、3 像の両側に 2 体ずつ、4 つの像があります。これらは四天王として知られる世界を守る四神です。金堂にて仏教僧は経堂を唱えたり、他の宗教行事を行います。